

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2017. 2月号（中島副委員長 記）

○実践歯学ライブラリー“プロビジョナルレストレーションの作り方・使い方～”（松田 哲）

＊プロビジョナルレストレーションとは、最終補綴に移行する際にあらゆる口腔機能の調整や再構築、審美性の確立、確認に使用する治療用具で、支台歯の移動防止、削除歯質の保護を目的に短期間の使用を目的にされるテンポラリーレストレーションとは似て非なるものです。プロビジョナルの目的・作製法についても記載してありますが、インプラントのプロビジョナルの考え方・オペイトボンティックの調整法・ブラクトライアングルの対応など、勉強になります。是非、ご一読ください。

○ファイバーポストレジソコアの臨床 ファイバーポストとレジソコアの接着（星 憲幸、木本 克彦）

＊制約はあるものの、ファイバーポストを併用したレジソコアが保険に導入され、使用している先生も多いのではないのでしょうか。では、どのファイバーポストとレジソコアを用いてどのような接着処理を行ってレジソコアを作製すればよいのでしょうか？この特集では、各メーカーのファイバーポストと接着剤の特徴一覧が記載されています。ファイバーポスト選択で困りの先生に、参考になります。

歯界展望／2017. 2月号（小野委員長 記）

○特別企画／静脈内鎮静法を知る（東京医科歯科大学 深山治久 他）

＊麻酔科の専門誌ではない一般誌にここまで詳しく「静脈内鎮静法」について特集されていることは少ないと思う。歯科恐怖症と言われる、通院困難患者や、過換気症候群、呼吸器・循環器疾患の患者等に精神的緊張を最小限にとどめ、安全かつ快適に歯科治療を受けてもらえるようにする方策として「静脈内鎮静法」は有効だと思う。もちろん麻酔科等での経験がないと実際に診療室での実施は難しいかもしれないが、ガイドラインや手順から実際の診療まで写真と主に解説してあるので分かりやすいと思う。

○臨床／フルジルコニアによるクラウン・ブリッジの即日補綴（東京医科歯科大学 新井祐貴 他）

＊近年、メタルフリーの補綴が注目を集めており、歯科用 CAD/CAM の普及により、ジルコニアのクラウン・ブリッジの応用は多くなった。更に短時間で（大臼歯のクラウンで 10 分程度）焼成が可能になり、形成、光学印象、削り出し、焼成、装着を即日に行うことも可能になってきているようだ。興味のある先生はぜひ読んで見て下さい。

ザ・クインテッセンス／2017. 2月号（岡崎副委員長 記）

○日本発・世界初の歯周組織再製剤「リグロス®」その研究・開発経緯と全貌に迫る 語り手）村上伸也

＊「リグロス®」は歯周組織の再生を誘導する効能をうたった「薬」で、遺伝子組換え技術により製造したヒト塩基性線維芽細胞増殖因子(FGF-2)である。これはサイトカインで、線維芽細胞系の細胞の増殖を促すが、それに加えて、血管新生を強く誘導するという働きがあるため、創傷治癒や組織再生を促進する際に、その場所への栄養補給を確実に行う。さらに、骨芽細胞や軟骨細胞、つまり硬組織を作る細胞にも働きかけて増殖を促すので、硬・軟組織からなる歯周組織の再生を誘導する。骨移植や GTR 法はスペースメーカーを含めた細胞の足場材を提供するイメージがあるが、FGF-2 は直接細胞に働きかけて、再生を支援する特徴がある。昨年 9 月 28 日に厚生労働省から製造販売承認を取得。

○もう迷わない！修復物、補綴装置の「装着」徹底解説（高垣智博）

＊以下 3 種の修復物での接着を検証している。修復物処理とセメントの主な注意点を抜粋。①シリカを主成分とするケイ酸化合物系セラミックス(e.max®など):化学的な接着のターゲットはシリカ(Si)であり、安全にかつワンステップでエッチング、クリーニング、シラン処理ができるガラスセラミック用セルフエッチングプライマー「モノボンドエッチアンドプライム」(イボクラービパデント)が優れている。ただし、ジルコニアセラミックスには使用不可能。②ジルコニアセラミックス:修復物に対しては「アルミナプラスト」と「10-MDP」は必要不可欠。アルミナプラストが実施できなければ、「イボクリン」(イボクラービパデント)による洗浄が最も信頼できる。リン酸基はジルコニア表面に強固に吸着するため、既に吸着している唾液による汚染をリン酸エッチングでは除去することはできない。③CAD/CAM 冠用コンボジットレジン:微小機械的嵌合の獲得と、フィラーを露出させるためにもアルミナプラスト処理は必須。化学的接着は露出したフィラー表面のシリカであるためシラン処理が必要。その前に 5 秒のリン酸エッチングが推奨される。セメントはプライマー型セメントが良いが、セルフアドヒーシブセメントを使用する場合はユニバーサルボンドを組み合わせる。

歯科評論／2017. 2月号（居樹副委員長 記）

○特集／歯の破折—その見つけ方と対応のポイント（長谷川晃嗣 小田 豊 他）

＊齲蝕、歯周病について抜歯の原因となる歯の破折。我々臨床家にとっては最もストレスを感じる症例の一つです。歯の破折をどのように見つけるか、どのように破折することが多いのか徹底的に解明していきます。さらには破折歯をなんとか保存できないか、そういった取り組みを生活歯と失活歯に分けて紹介しています。少しでも患者さんの歯を守るために是非お読みください。

○【臨床に加えたいプラス手】TAD(Temporary Anchorage Device)を応用した矯正治療—GP が取り入れるために知っておきたいポイントとトラブル対応法

第2回 圧下と咬合平面の改善への応用（金成雅彦）

＊前号から始まった TAD (Temporary Anchorage Device)、矯正用アンカースクリューを応用した矯正治療の連載です。今回は圧下と咬合平面の改善への応用。そもそも「圧下」は矯正治療では難易度が高い治療でしたが、TAD を応用することにより短期間で容易な治療法になったと言えるそうです。矯正治療を行っている先生方は必見の特集です。